

もんし 聞思

発行所 光山寺
〒758-0063 萩市 大字山田4553
TEL (0838) 22-1370
http://kousanji.net

科学は 自然への問いかけ
宗教は 自己への問いかけ
東昇

親鸞聖人750回大遠忌法要御満座を機縁として「新たな始まり」を期する消息が発表

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要のご満座となる一月十六日の日中法要に引き続き「御消息発布式」が行われ、「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息」がご門主様より発布されました。

「昨年の四月九日よりお勤めしてまいりました親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は、本日ご満座をお迎えいたしました。各地から多くの方々にご参拝いただき、六十五日間百十五座にわたるご法要を厳粛にお勤めすることができましたのは、仏祖のご加護と宗祖のご遺徳のおかげであり、御同朋御同行の方々の報恩謝徳のご懇念のたまものと、まことに有り難く存じます。

顧みますと、ご法要の始まる直前の三月十一日、東日本大震災がおこりました。その後も各地で地震、豪雨など災害が続き、大変な一年となりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。法要参拝を楽しみに待ちながら、災害やさまざまな理由で参拝できなくなった方々のことを、忘れることができません。

地球の歴史を考えます時、自然現象としての地震や豪雨は、数限りなくあったことでしょ。しかし、それが深刻な災害となるのは、人間のあり方、社会のあり方によります。特に、今回の原子力発電所の事故は、自然の調和を破り、後の世代に大きな犠牲や負担を強いることになりました。これは肥大した人間の欲望のもたらしたところでもあります。



聖人は、凡夫には清らかな心も真実の心も存在しないとお示しになりました。それは、阿弥陀如来の光に照らされて明らかになる私の姿です。凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と、精一杯努力させていただきましょう。阿弥陀如来はいつでも、どこでも、照らし、よびつづけ、包んでいてくださいます。

本願念仏のご法義は、時代が変わり、社会が変わっても、変わることはありません。しかし、そのご法義が活きてはたらく場である現実の社会は、地域によって異なり、時とともに変わります。ご法義を伝え、広めるための宗門の組織も、社会の変化に応じて変わる必要があります。歴史を顧みて、受け継ぐべき伝統を確かめ、創造的な活動を育てていかなければなりません。本年四月一日から、宗門の体制が改められます。時代に対応する営みの一つであると言えましょう。新しい体制のもとで、一人ひとりが抱える課題を大切に、お念仏を喜び心豊かに生きることのできる社会を目指しましょう。このたびの大遠忌法要が、新たな歩みを進める機縁となりますよう念願いたします。

平成二十四年一月十六日龍谷門主 釋即如

浄土真宗本願寺派(本山・西本願寺)は、宗派と本山の運営を分離するなどの組織改革を盛り込んだ宗派の最高法規「宗法」を改正した。宗法の抜本改正は昭和二十七年以来約六十年ぶりで、この四月に施行された。改正内容は、宗派と本山西本願寺の運営を分離、宗会の権限の多くを新設する「常務委員会」に委譲、築地本願寺(東京)の権限強化など。詳しくは、本願寺のホームページをご覧ください。今後は多くの人口が集中する首都圏を中心とした関東への伝道が強化される予定である。

しかし、宗法の第二条にある「この宗門は、親鸞聖人を宗祖と仰ぎ、門主を中心として、宗制を遵守する個人及び本山、寺院、教会その他の団体を包括し、浄土真宗の教義をひろめ、法要儀式を行い、僧侶、寺族及び門徒その他の信者を教化育成し、他力信仰の本義の開顕に努め、人類永遠の福祉に貢献することを目的とする」という目的を外れることない新しい展開を願いたい。

光山寺行事案内

平成二十四年度の光山寺中期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

★光山寺法要

五月一日(火・水曜) 春季永代経法要(講師、香川孝志師)
九月二六・二十七日(水・木曜) 秋季永代経法要(講師、二天生師)

★山口教区・萩組

五月二三日(水曜) 萩組初参式(萩幼稚園)
六月一日(日曜) 山口別院、永代経法要(萩組参拝日)
六月一日(日曜) 萩組仏教婦人会大会(萩幼稚園)
六月二二日(金曜) 萩組仏教青年会総会・研修会(光山寺)
六月三十日(土曜) 萩組総代会総会(蓮正寺)
七月下旬(曜) 萩組子供一泊合宿(萩幼稚園)

★子供会(土曜学校)

五月十二日(土曜)・六月十六日(土曜)・七月十四日(土曜)
八月 四日(土曜) ※原則第三土曜家族の日に開催。

★仏教青年会

五月二〇日(日曜)・八月 四日(日曜)

★仏教壮年会

六月一日(日曜) 午後七時 仏教壮年会総会(本堂)
十月頃(日曜) 午前八時 光山寺ソフトボール大会

★仏教婦人会

五月二〇日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式
五月二七日(日曜) 午後一時半 全役員会
六月二八日(木曜) 午前八時半 清掃・莊嚴・リハーサル
六月三〇・七月一日(土・日曜) 光山寺婦人会法座(岡智徳師)

★総代会

六月十六日 午後五時(本堂) 総会

★親鸞聖人讃仰会

午後八時(本堂)
六月十八日(月曜)・八月六日(月曜)

★礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会)

午後八時(本堂)
五月十二日(土曜)・六月九日(土曜)・七月十四日(日曜)
八月十一日(土曜)・九月八日(土曜)・十月十三日(土曜)

★雅楽練習会

午後七時半(庫裏)
五月二七日(日曜)・六月二四日(日曜) 七月二九日(日)

※コーラス練習会日程についてはお問い合わせください。

募集・お知らせ



2012年(平成24年)5月1日(火曜日)

●礼讃の夕べ 五月十二日(土曜日)午後八時より今年も開催!

「正信念仏偈」の練習をしてきましたお経の練習会も今年で二十二年目となります。となたでも参加できるお経の練習会として、本年も五月から十月までの月一度の練習(原則第二土曜日の午後八時)で、お経本(聖典)を中心に日常の基本的勤行の一通りを練習したいと思えます。お経本をお持ちでない方は光山寺にて用意しますので参加当日にお申し出ください。最近では新しい参加の方も増えています。お若い方、はじめて参加の方は大歓迎です。

(お申し込みは不要・無料です)

●光山寺初参式 五月二十日(日曜)午前九時半

親鸞聖人のご誕生日である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月二十日光山寺本堂にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となります。仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあつた初参式です。昨今子供の減少が激しいところですが、どうかご親戚等に対象となるお子さんがいらっしゃいましたら是非お申し込み、ご参加ください。尚、お子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けています。尚、叔組の初参式は五月二十三日に菟幼稚園にて開催予定です。こちらも参加受付中です。



●親鸞聖人一人鑽仰会 △公明草秀集!

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を四月よりスタートしましたので、新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千円で二ヶ月に一回の開催。西本願寺の『季刊せいてん』を中心に学習します。浄土真宗聖典註釈版が必要となりますが、お持ちでない方は申し出ください。尚、開催は偶数月第三月曜日午後八時より(次回六月十八日)となりますのでご注意ください。(詳細別紙にて申し込みください。)

●本の紹介 『願いの力』大谷光貞

御門主様の新刊本がご本山より出版された。宗教とは何か? 仏教は何をめざすのか? すべてのいのちにかげられた大きな願いのなかで、私たちは本当の自分に気付かされる。仏教、浄土真宗はじめて触れる方にわかりやすく、み教えを語る。(著者、大谷光貞 判型新書判 頁数二二二ページ 定価七三三円 ISBN111978-4-89416-465-9)



叔組役員変更

四月一日、大遠忌法要円成に続いて、宗派の機構改革が実施された。叔組の役員も任期満了につき、組長に蓮正寺住職が就任された。これにより叔組の役員配置改革も実施された。光山寺若院も二期九年に及ぶ研修部長(総代・仏壯・門推進員・連研を担当)から門徒推進員連絡協議会のみを担当に変更となった。各種行事についても変更予定があるので、叔組役員の皆様はご注意ください。

法話「ありのままの姿」

福井県覚成寺住職/本願寺派勧学

御消息には、「聖人は凡夫には清らかな心も真実の心も存在しないとお示しになりました。それは、阿彌陀如来の光に照らされて明らかになる私です。」と、仏様の目から見た私たちの有りようをお示し下さい。仏教では、「自分さえよければ」という思いを心の汚れとしますが、仏様の心は、そのような汚れがほんのわずかも存在しない清らかな心であり、また、嘘・偽りのまったく混じらないまことそのもの心です。そのような仏様の心からすれば、私たちには、純粹に清らかな心や、まことそのものの心は存在しません。ところで、清らかな心も真実の心も存在しないというのは、仏様の目から見た私たちの姿ですから、本来、私たちには分かるはずのないことなのです。親鸞聖人は、本来分かるはずのないことが分かるのは、仏様の力によって分かって頂くのだと教えて下さいます。私たちの本当の姿は、私たち自身の力によって知ることができません。仏教の中には、様々な修行によって、自らの心を清らかにし、まことにしていこうと、つまり自らの心を磨きあげることによって仏様に近づいていこうとする道があります。自らの心を、清らかに、まことに磨き上げなければならぬと思うのは、自らの心が清らかでもなく、まことでもないことを知るからです。つまり、磨きあげなければならぬと、磨きあげられる側の自分自身は問題とされています。しかし、磨きあげる側は自分自身については、果たして、自分自身を磨きあげることのできる身であるのかということが問題にされているでしょうか。

阿彌陀如来という仏様の光は、様々な修行によって自らを磨きあげようとしている自分自身を、自らの心を磨きあげる力を持っていない自分であることを、明らかにして下さい。私たちが私たち自身の本当の姿を知るためには、阿彌陀如来という仏様の力によるしかないので。そして、私たちに私たち自身の本当の姿を見せる仏様の力は、光の力にたとえられます。そこで、御消息に、「阿彌陀如来の光に照らされて明らかになる私の姿です」と、お示しになります。さて、親鸞聖人の教えによりますと、阿彌陀如来という仏様は、私たちが自らの光の中に探れ取ってお救いにな

る仏様なのです。そして、親鸞聖人は、阿彌陀如来という仏様の救いは、「逃げる者を追いかけてつかまえるような救いだ」ともお示しになります。「逃げる者を追いかけてつかまえるような救い」というのは、どのような救いなのでしょうか。

次のような状況をイメージしてみてください。子どもたちが歩道で鬼ごっこをして遊んでいます。すぐ横の車道は交通量が多く、しかも、どの車もスピードを出してびゅんびゅん走っています。子どもたちは鬼ごっこに夢中で、鬼に追いかかれた子どもが、車道に飛び出しそうになります。子どもたちは内のお父さんがそれを見て「危ない!」と思って子どもをつかまえるように笑いながら逃げ回ります。やっと子どもをつかまえたお父さんはどうするでしょうか。つかまえた子どもは、もう決して離しません。もし離したならば、今度こそ車道に飛び出して車にひかれるかもしれません。つまり、いったんつかまえたならば、決して逃がさないということです。

阿彌陀如来という仏様の救いは、このような救いなのです。そして、救われる私たちが言えるのは、いったんつかまえたならば、もう決して逃げられないということです。私たちの姿が阿彌陀如来の光によって照らし出されるということ、私たちが阿彌陀如来の光の中にあるということです。つまり、阿彌陀如来の光に探れ取られて、もはや逃げるることができない身になったということなのです。それは、清らかな心も、真実の心も無いままで、仏様の光に包まれているという有りようです。仏様の光に包まれていることは、また仏様の大きな力に支えられているということでもあります。阿彌陀如来の光に照らされた私たちの姿は、清らかな心も真実の心もまったく存在しないと知らされたということなのですが、だからといって私たちの行いに何の意味もないということではありません。清らかな心も真実の心も無い身と知らされるということは、ただそのような我が身をなげくだけであって、ひたすら消極的になり、何も積極的なことができなくなるのだと受け取る人々もいますが、決してそうではありません。それは、親鸞聖人のご一生を見れば分かります。親鸞聖人は清らかな心も真実の心も無い身と我が身をなげいておられますが、その一生は、ひたすら積極的、ひたすら前向きに生きられた一生でありました。清らかな心も真実の心も無い身であるので、私たちの行いが不十分・不完全なものであるのは当然なのですが、清らかな心も真実の心も無い身がそのまま仏様の光に包まれ、仏様の大きな力に支えられている身なのです。失敗を恐れることなく、前向きに精一杯努力して生きていく力が恵まれるのです。ご消息を戴いて、「世の中が平和であるように」、仏法がひろまるように」と精一杯努力を怠らぬように。(本願寺web「おたのしみ」1011 毎日新聞)

山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半)

救こころの電話(三分間法話) 1125-7710

西本願寺の時間(KR Yラジオ) 毎週日曜日午前六時から六時十分